

事務事業名	自然教育センター管理運営事業				担当	教育委員会 自然教育センター	
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285-83-1277	
施策名	2	小・中学校の教育の充実			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠	真岡市自然教育センターの設置、管理及び使用条例					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 S60 年度～）	
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費	9. 自然教育センター費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要	自然教育センター（老人研修センター併設）施設（研修棟、宿泊棟、作業棟、農地、多目的ホール、第一・第二野外炊飯場、水上アスレチック、釣り池、ホタル水路、芝生広場、野球場、サッカー場、ゲートボール場、屋外倉庫5棟、貨車2両、自転車置場、日本庭園、駐車場とその周辺）の維持・管理、修繕事業と備品の整備及び体験学習の維持・管理、公用車4台の安全管理とメンテナンスを行う。活動用地面積約300000平米 / 敷地面積13437平米 / 建築物延床面積3933平米						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 24年度実績 自然教育センター（老人研修センター併設）の施設の維持・管理及び日常点検、手入れの必要性の確認と対応・手配、保守点検委託、修繕・改修に要する備品等の整備 25年度計画 基本的には24年度に同じ		⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移 名称 単位 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(見込)							
		ア	委託件数（金額）	件/ 千円	26/29175	27/28522	31/28254	28/28171	30/30000
		イ	修繕・改修件数（金額）	件/ 千円	38/6641	42/9175	49/2633	25/1706	50/6422
		ウ	備品購入件数（金額）	件/ 千円	0/0	4/1247	10/1730	5/1312	3/2333
		エ							
		オ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 自然教育センター施設一式 自然教育センター（老人研修センター）利用者		⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移 名称 単位 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(見込)							
		ア	活動用地面積	平米	300000	300000	300000	300000	300000
		イ	敷地面積	平米	13437	13437	13437	13437	13437
		ウ	建物延床面積	平米	3933	3933	3933	3933	3933
		エ	利用者数	人	21560	21132	20774	21619	21700
		オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 利用者の学習（活動）環境に適した施設、設備の確保 公用車の安全管理と整備		⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移 名称 単位 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(見込)							
		ア	不具合・故障等の発生件数		38	42	49	25	50
		イ							
		ウ							
		エ							
		オ							
④ 結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 安全で安心な環境で自然教室活動や高齢者研修を行なうことが出来る施設の提供 【より適切に事業を評価できるようにするため、名称を平成21年度より新たに設定し直した。】		⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移 名称 単位 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(見込)							
		ア	設備等への苦情・要望件数		1	0	0	0	0
		イ	備品等への苦情・要望件数		0	0	0	0	0
		ウ							
		エ							
		オ							
(2) 総事業費の推移		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	
		その他	千円	4	4	4	4	0	
		一般財源	千円	49,011	51,563	50,378	43,055	0	
	事業費計(A)	千円	49,015	51,567	50,382	43,059	0		
	人件費	正規職員従事人数	人	6	6	6	6	0	
		延べ業務時間	時間	3,720	3,829	3,844	3,798	0	
		人件費計(B)	千円	15,088	16,342	16,306	15,959	0	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	64,103	67,909	66,688	59,018	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	昭和60年に自然教育センター（老人研修センター）が開設され、事業が開始された。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	河川環境管理関係者から、鬼怒川を利用した教育活動推進の要望もある。（自然教育センター付近の流れはカヌーに適している。）

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 利用者が安全で効果的な活動や研修ができるように施設環境の整備を図ることで、未来を担う子どもたちの健全育成や高齢者の生きがい作りに結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 自然教育センター(老人研修センター)管理運営は、利用者の安全確保及び効率的学習(研修)のため不可欠である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 利用者のための学習(研修)環境の施設の機能保全、安全確保が目的であり適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 現状において、適切な維持管理を行っている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 適切な維持管理を怠ると本来の機能が得られなくなり、老朽化が加速してしまう。 自然教育センター(老人研修センター)の利用に支障が生じては、児童生徒・高齢者に安全で快適な学習(研修)環境を提供できなくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 利用者に安全で快適な学習(研修)環境を提供できなくなる。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 施設の日常点検及び業務委託に関する契約・監督・支払い事務が主なものであるため、人件費削減の余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 施設管理は市の責務である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							